

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
第8回 V-High帯公共BB／狭帯域無線システム作業班
議事概要(案)

日時:令和7年7月24日(木) 16:00～16:40

場所:Webによる開催

主 任 : 藤井 威生
 構 成 員 : 石原 周、大野 和俊、梶田 宗吾、檜村 聡、加藤 数衛、金澤 昌幸、
 金子 順、北沢 祥一、倉持 隆(津和構成員代理)、佐藤 秀清、
 清水 良真、杉澤 洋輝、高井 峰生、高田 佳紀、
 高間 皇(松波構成員代理)、仁井田 雅俊、野尻 英行、原田 博司、
 比嘉 良貴(金子構成員代理)、増岡 誠也、結城 義徳
 構 成 員 補 助 : 福島 勇武(松波構成員補助)
 事務局(総務省) : 宮澤室長、福川課長補佐、内山係長、藤井官

議事

会議冒頭、7月の人事異動で事務局に変更があり、宮澤室長から挨拶がなされた。

- ① 前回の議事概要(案)の確認
 事務局が「資料8-1」に基づき、説明した。

特に質疑等はなし。前回の議事概要に関しては確定となった。

- ② 狭帯域 IoT 無線システムの同時送信数と干渉量の関係について(下側帯域)
 福島構成員補助が「資料8-2」に基づき、説明した。

質疑等は以下のとおり。

藤井主任 「資料8-2」7ページ目に干渉量増加を考慮した所要離隔距離がまとめられている。「干渉量が約1倍～2倍未満時の所要離隔距離」と「干渉量が2倍時の所要離隔距離」という2つの項目があるが、なぜこの2つを分けているのか。また、「約1倍～2倍未満」と言いつつ、離隔距離は固定値となっているが、この値は最悪値ということか。

福島構成員補助 「資料8-2」6ページ目で、最大干渉量は2倍になるとの結論を示した。しかし、全てのケースで2倍となるわけではないということから、2倍のものは右の列に、2倍に満たないものは中央列に示した次第である。左列の「1台時の所要離隔距離」の大きさによって干渉量が異なるため、中央列では自由空間伝搬損失で算出した離隔距離を示している。右列の2倍のケースでは、全て3dB増で計算した距離を示している。

藤井主任 承知した。わざわざ2列に分ける必要があるのかというところ

は疑問である。与えられた条件としては、複数台数が同時共存した時の最悪干渉を受けたと仮定した場合の離隔距離であるという認識でよいのか。

福島構成員補助 1台時の所要離隔距離が、39.5mよりも大きい小さいかで区別している。39.5mよりも大きければ最悪で2倍の干渉量を受ける、39.5mに満たないものは2倍未満というところである。複数台数で送信した場合の干渉量を考慮した時の数値は2列に分けているが、この距離を離せば所要離隔距離になるという数値になっている。

藤井主任 承知した。2列に分けると分かりにくいかなという印象を受けた。条件として複数台数を考慮したケースで計算した結果であれば、1列にまとめてもいいと思われるため、まとめ方について検討いただければと思う。

- ③ 狭帯域 IoT 無線システムの同時送信数と干渉量の関係について(上側帯域)
福島構成員補助が「資料8-3」に基づき、説明した。

質疑等は以下のとおり。

藤井主任 結論としては、干渉量が増えたとしても、実力値を考えると今までの離隔距離程度で済むという結果だと理解した。

- ④ その他
事務局が今後のスケジュールについて説明した。

(閉会)